

犯人に告ぐ

MOVIE

11.17~
(Sat)



『犯人に告ぐ』ショウゲート 配給
10月より、新宿シネマスクエアとうきょう他に全国ロードショー！
©2007「犯人に告ぐ」製作委員会

現代社会の抱える暗闇の中で、 震えて眠る夜の寒さは如何ばかりか。

大胆に繰り広げられるテレビを利用した劇場型捜査。ブラウン管越しに犯人と対峙するのは、刑事と犯人ばかりではない。そこに渦巻く、警察内部の軋轢、メディアの思惑、見えない動機、被害者家族の苦悩…。現代社会の歪みこそが、本当の意味での犯人だとでも言いたげである。記憶に新しい「愛の流刑地」「フラガール」や、「サウスパウンド」「権三郎」とまったく毛色の違った主演作品が立て続けに公開され、日本映画に欠かせない役者となったトヨエツが初の

刑事役に扮する。それだけでも、スクリーンで観る価値があるというもの。そんなふうにも思われせられる俳優は、そう多くはない。

京都でロケが行われ、一足先に公開された「クロズド・ノート」も同じく雫井脩介の原作。観比べてみるのも一興かしら。重版に重版を重ね、いまや60万部を突破する原作を読んでから観るか、観てから読むか。原作ありきの映画化では、必ずぶつかる悩みの壁だ。
(山田涼子/ライター)

■「犯人に告ぐ」■監督/瀧本智行 出演/豊川悦司 石橋凌 小澤征悦 笹野高史 片岡礼子 ■京都シネマ
■2007.11.17~(Sat) ■問い合わせ 075-353-4723 (京都シネマ)

JCI KOREA 韓国京都市青年会館所 認定30周年記念事業映画特別上映会

鐘 ~チヨン~

ある在日家族の30年

2007年11月30日(金) 京都テルサホール
開場 18:00 開演 18:30

監督/柴田歩 撮影監督/秋場武男 出演/吉田由一 小沢仁志 寺島進 中野英雄 他

お問い合わせ 映画「鐘~チヨン~」制作実行委員会
TEL:075-321-8636 FAX:075-321-8636 E-mail:kjkyoto@cg.mbn.or.jp

鐘 ~チヨン~

一般公開予定も、DVD販売の予定もない、 ただ一度きりの上映が教えてくれるもの。

わずか30年ほど前、「在日」をカミングアウトするにはとんでもない覚悟が要った。「JCI KOREA 韓国京都」設立30周年記念として製作された同作の舞台は当時の京都。東九条で撮影を行うなど、ロケーションもリアルだ。
大統領が観光誘致のCMに出たり、日韓W杯の成功があったり、京都にも焼肉店や韓国料理店がこれだけ建ち並ぶようになった理由は一つではないだろう。だが主人公の在日韓国人三世を演じる吉田由一は言

う。「その頃を生きた在日一世の、不屈の働き抜きには語れない。その上に今の幸せがある」と。
家族のあり方、ラストシーンに刻まれた一言…、鳥肌が立つような様々なテーマも盛り込まれている。在日の人たちの気持ちや痛みが100%の純度では解らない僕だけれど、当時を知る世代としては、中でも自由に友達をつくれることがいかに幸せかを、この映画から教わるような気がする。
(竹中 聡/本誌)

■「鐘~チヨン~」
■主催・JCI KOREA 韓国京都 監督/柴田歩 撮影監督/秋場武男 出演/吉田由一 小沢仁志 寺島進 中野英雄 他
■京都テルサホール 都市南区新町通九条下ル 京都府民総合交流プラザ内 075-692-3400
■18:00~の一回のみ 入場無料 (入場整理券が必要。混雑の際は入場制限の場合あり)
■問い合わせ 075-321-8636 kikyoto@cg.mbn.or.jp (映画「鐘~チヨン~」制作実行委員会/認定30周年記念事業委員会)

MOVIE

11.30
(Fri)

そこで私は「純粋に京都に似合う車を作りたい」と思うのだ。京都の町並みには斬新だが派手さのない、どこか懐かしさを感じさせるデザインが必要だと思っし、信号が多くストップ＆ゴーの連続だから高燃費も必要、ブレーキや駆動系への負担が大きいから高い剛性も要るし、道は細く、駐車スペースも狭いからハンドル

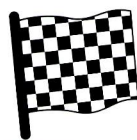
の切れ角の大きさ、ミラーの自動開閉…、必要な機能が次々見えてくる。ここでフと思うのだ。「京都は自動車開発に最高ではないけれど、駆け出しの頃、「京都で成功できれば、世界中どこに行っても成功できる」とよく言われた。小型・低燃費が世界基準となった今、自動車開発にはピッタリ当てはまらると思う。」



京都発、びつくりカーを考えてみる！

Kyoto Car-Moratorium

~京都人のクルマ知らず~



8th Lap to go



© QUATRE ILLUSTRATION

中島 崇 なかしま たかひ
'68年生、自称「車迷のソムリエ」、創業昭和38年。北区は紫野の自動車屋、(株)中島商会の二代目社長として「安く、いい車を探そう」とのポリシーで、かつて自動車オークションの取引で2000万円をドブに捨て、大失敗の連続から学んだノウハウをまとめた無料小冊子「その車に手を出すな」も好評。中島流「車道家」を自指す京都人。